

日本大学芸術学部



校友会報

平成24年10月発行
2012年秋季号

89

C O N T E N T S

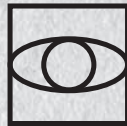
学部長インタビュー		第2回韓国江古田会総会／	
学部長・名誉会長 野田 慶人	3	第16回福岡江古田会総会	13
2日間連続の第6回日藝賞記念講演		ふくしま江古田会総会／宮城江古田会総会／	
松井 龍哉氏	5	山形江古田会総会	14
船越英一郎氏	6	佐賀江古田会総会／熊本江古田会総会	15
平成23年度校友会総会	7	青森江古田会総会／秋田江古田会総会	16
皆さん今日は！	8	北海道江古田会総会／新潟江古田会総会	17
学部祭	11	学科ニュース	18
「第12回福岡江古田会アート展」開催	12	編集後記	23

THE ART FESTIVAL

日芸祭

11/2[金]. 3[土]. 4[日]
[平成24年]

江古田校舎



校友会コーナー（お休み処）を設けております。どうぞ新しくなった
江古田校舎にいらして校友会コーナーにお立ち寄りください。

学部長インタビュー



日本大学芸術学部学部長
日本大学芸術学部校友会名誉会長

野田 慶人

綾部 いつも地方の支部総会にご出席をいただきありがとうございます。

野田 時間の許す範囲でできるだけ行きたいと思っています。8月31日をもちまして日本大学副総長の任期が終わりましたので、これからはもう少し時間の余裕ができると思いますよ。

綾部 早速ですが、ちょうど一年前の折にうかがいました、いま所沢で二年、江古田で二年間という学生生活が昔のように、四年間ずっと江古田になるというお話。

野田 ああ通年化のことですね。ええ昨年十月の教授会で決定しました。

綾部 いつ頃から具体化するのでしょうか。

野田 いやまだまだです。やっと通年化に向かって実行プロジェクトを上げたばかりです。というのは、設備やカリキュラムなど、慎重に検討しなければならないことがたくさんありますから。その上、新校舎の時の借金もありますから、ただ急げばいいという訳にはゆかないのです。どこの大学も都市回帰型になって人

気の回復を図っています。又、教育上の見地からも、そろそろ僕らの時代のように一学年から四年までが一緒になって先輩たちに揉まれながら育つという環境に戻すことが大切だと思います。

綾部 地方の校友のみなさんも芸術学部の思い出と江古田の町とは、切り離しては考えられないようです。

野田 江古田での一貫教育となるには、まだ四、五年はかかると思います。現在二学年で使っている所を四学年で使うわけですから設備や建物の問題、カリキュラムの問題等々、解決しなければならない課題が一杯です。プロジェクトが立上って何回か会議を重ねていますから、ある程度の結論を出せるのは来年でしょう。

綾部 所沢校舎はどうなるのでしょうか。

野田 所沢校舎は平成元年にスタートして既に二十四年たちました。しかしこれで所沢校舎がなくなるということではありません。芸術学部の今の定員を維持するには設置基準上で、江古田だけでは二千

坪不足ですから、所沢校舎は体育施設や実習施設、アトリエなど授業の補充施設として使いながら、又新しい利用方法も考えなくてはと思っています。

綾部 ツーキャンパスでは財政面も苦しいではありませんか。

野田 それも通年化の意図する所です。所沢にかかっている経費を出来るだけ江古田に還元するという意味もあるので。建物の維持費等はある程度はかかりますが、例えば両方に事務局がなくてもいいかもしれませんね。昨年九十周年を迎えましたが、次の百周年への計を立てるとすると、まさに、これからの通年化へ向けての準備や実現は、芸術学部の設備の充実や教育の充実という点で、百周年までの最終的な大きな取組みとなるでしょう。

綾部 新しいことでもう一つ「芸術教養課程」はもうスタートしているんですね。

野田 ええ、その実現のために、平成二十四年度から学則の改正を行ない、一年生は新学則でスタートしています。まだ一年間が終っていませんし、完成までには後三年ありますから、不都合なところはそのつど多少の修正を加えながら、より完

成したものを目指してゆきたいと思っています。

綾部 総合講座とはどう違うのでしょうか。

野田 第一歩が総合講座でしたが、これは主に三、四年生向けの応用編でしたから、基礎から他大学にはない芸術学部らしい魅力的な芸術教養科目を学ばせたいとの思いからスタートしました。

うちの教職員はみんな前向きですからね、この芸術教養課程も通年化の問題も先生方の気持は早く実現した方が良いとの気持ちが強く、勿論、調整や妥協もしてもらいながらですが、今は一丸となって取組む時期だとみんなが思っているのです。

綾部 学部長がどんなに小さな支部にもご出席下さって、

“いま芸術学部では”というホットな情報をお話下さるので、地方に暮らす校友の方々にとっても、母校と自分との距離がとても近く感じられるようになったと言われます。

野田 各支部が色々に工夫を凝らして、若い人を何とか集めようとしたり、最近では嬉しいことに在校生の父母にも呼びかけて出席下さる方もあり、私も行き甲斐があります。

綾部 どの支部も高齢化が悩みのようですが、学部長が出席下さるとあって、教え子の若い人が出席して、中には役員になって下さる人もあるので、これからの校友会活動にも希望が持てるようになりました。

今後共、校友会へのお力添えよろしくお願いいたします。

まとめ・綾部



2日間連続の第6回日藝賞記念講演

7月3日(火)東棟EB1にて、記念講演が開催された。

松井 龍哉
(美術学科平成2年度卒)

学部長より在学中は、アメリカンフットボールに在籍し飲み、語らい、当時はビジュアルコミュニケーションを学びバランス感覚を養うことを実施していた、と紹介された。

第1章 私とデザインについて

1. 卵時代(12歳~22歳)デザインを学ぶ。この時代の財産としてはとにかくやってみる精神が大事。
2. ひよこ時代(22歳~32歳)デザインで仕事。この時代の財産としては、メンターとの出会い(丹下健三氏・北野宏明氏) 10年以内に独立することを目指す。
3. 鶏時代(32歳~42歳)デザイン

で経営。この時代の財産としては夢を共有する専門家との出会い。フラワーロボティクスを4人で立ち上げる。

第2章 デザインと社会について

このころ、自律型ロボットをめざすが、なにより大切なポイントは技術による便利化より人間の性質を見極め、そして良いアイデアは社会にひろげてこそ意味がある。

第3章 これからのデザイナーについて

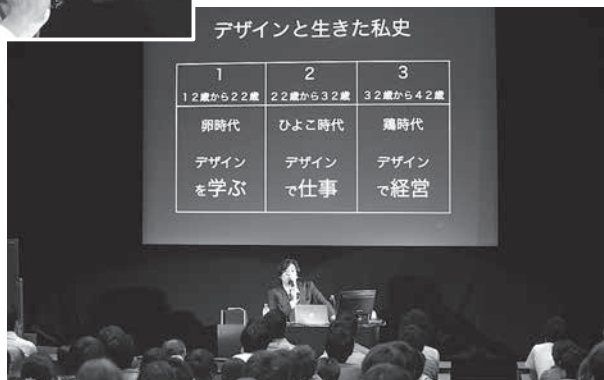
物事を総合的に考え行動し、物作りだけではなく、自らの組織を作り自らの販路を築くことが大事。そしてWill=意志=動機から発してその

動機を実践させる活動。ひたすら打ち込めば必ずチャンスはある。

このような内容で

90分の講演を大変緻密に構成し、ご自身の経験を説得力ある作品、文字、写真、動画を巧みに駆使した講演はさすがロボットデザイナーであり、この賞を学生主体による投票で若者の感性で選ばれたことがうれしかった。と冒頭おっしゃっておられた。

現役学生にとっては、大きな‘エネルギー’‘訴え’を感じ取ったに違いありません。



7月4日(水)大ホールにて、船越英一郎氏の講演が開催された。
野田学部長の挨拶、宮澤教授による司会・進行で行われた。

学生の拍手喝采で入場され、熱い男が、暑い日にやってきました、の一声で始まった。

今回のテーマは、“どうやって夢をかなえてきたか”ということで、在学中3年次の実習作品、卒業作品の上映から始まり、小京都ミステリーシリーズへと続いた。この作品は、日本テレビで13年間続いたシリーズで、今思うとトレーニング時代であったと当時を振り返られた。仕事のあり方、スタイルを考えるとともに、トレンドドラマが主流であった時代、俳優として悩んだ時代でもあった。

しかし、2時間ドラマを極めるに連れて、若い世代にも見てもらいたいと

思い始め、ここを自分のフィールドにしようと思い、名前も栄一郎から英一郎に変え新たなスタートを切った。日藝出身ということを出し、俳優だけでなくクリエイティブな面にも興味を持ち、脚本・ドラマ作りにも参加させてもらった。

ドラマは、成功するとみんなのもの、失敗すると主役1人のものである。だからこそ、悔いのない作品作りを目指したい。作品には、見えない力が湧いてくる。演じる役柄の振りが大きいことは役者として幸せなこと。役作りのための情報は、可能な限りたくさん入れ準備をする。ゴールもないし、

船越英一郎 (映画学科57年度卒)

正解もないのがこの世界。それがこの仕事の幸せな所である。

自分は亀のようにゆっくり進んできたことで多くの人と出会うことができ、自分の財産となった。最後には、やりたい事に全力投球できているか問いかけてみるといい。在学中、本をたくさん読み、映画をたくさん鑑賞したことが今の礎になっている。

と一気に熱く語られたことがとても印象深かった。

近い将来、学部長もおっしゃっていたように、アクターズスタジオの実現をお手伝いできることを期待しています、と結んだ。



平成24年度校友会総会

平成24年度日本大学芸術学部校友会総会が6月30日(土)午後5時より東棟E101教室において開催された。

総会は綾部会長の挨拶、続いて議長に小泉定之氏(写41卒)、副議長に南岡秀男氏(写46卒)、書記に西尾敦子氏(音平成元卒)を選出、議事に入った。議長より会則10条により会は成立する旨の報告があった。

会務報告(川上常任幹事・総務) 決算報告(宮澤常任幹事・財務) 監査報告(渡辺監事) 予算案審議

(宮澤常任幹事・財務)と進めた。

昨年度の震災を受けて、各学部15%の義援金の負担。

また、学部においての震災グッズの充実をはかるためにグッズの寄付などの予算案。

いずれも原案通り拍手を持って承認された。

推薦校友について。宮澤常任幹事より小川幹弘氏(中村獅童)、神山征二郎氏の紹介がなされ会員の賛同を得て承認された。

引き続き懇親会に入った。
野田慶人学部長の挨拶、田中英壽

理事長・校友会長の挨拶、名誉顧問である佐々木照男氏の乾杯で始まった。

先程推薦校友の承認を頂いた神山征二郎氏の紹介、最長老の中田ムメノさんのスピーチ、また昨年の芸術祭に展示した写真展、芸術祭の模様を撮影したDVDも流しながら学内執行部、課長職以上の皆さんにもご出席頂き、皆さんで楽しいひと時をすごし、豊島副会長のメで会は終了した。

平成24年度(2012年度) 予算

収入之部		
勘定科目	摘 要	金額(円)
会費収入	4,000円×4,400人 = 17,600,000円 5,000円×300人 = 1,500,000円	19,100,000
名簿発行準備金	取り崩し(防災グッズ)購入・学部へ寄贈	800,000
収入利息		200,000
雑収入	総会懇親会会費・新年顔合わせ会費等	690,000
合計		20,790,000

支出之部		
勘定科目	摘 要	金額(円)
総会費	懇親会	650,000
諸会議費	常任幹事会・諸会議	250,000
消耗品費	ゴミ袋・洗剤・ガムテープ・雑巾 他	30,000
事務用品費	ファイル・ノート・プリンターインク・コピー用紙 他	30,000
通信費	会報発送(在校生・卒業生)総会・会費請求切手 他	5,000,000
補助費	学科同意会・幹事会・総会・芸術祭・卒業生を送る会	500,000
寄付分担金	本校友会分担金	300,000
印刷費	会報・総会・幹事会・終身会費請求書 他	3,100,000
人件費	事務局員給料・アルバイト代・人材派遣	4,700,000
法定福利費	労働保険・社会保険・雇用保険	700,000
交通費	事務局員通勤定期代 他	200,000
租税公課	利子税	45,000
本部役員会費	年会費(本部副会長5万・常任委員2名各3万・委員3名各2万)	170,000
交流費	組織拡充(各江古田会との交流)・各種校友活動への後援・他	2,700,000
活動費	学生諸活動支援	150,000
機械維持管理費	メンテナンス及びホームページ改良 コピー機リース(202,080円)	1,000,000
雑費	会報取材費・貸金庫代・スタジオマイデザイン料 他	465,000
特別会計	防災グッズ 購入・学部へ寄贈	800,000
減価償却費		
合計		20,790,000



皆さん今日は！

●中田ムメノ(法文19年度卒)

かぞえ年95才。小さい文字は書けません。右眼は緑内障です。失明しそうです。今頃は全てパソコンです。手紙も脚本もパソコンです。それでも歯は我が歯でかんでいます。

●大手万平(旧制16年度卒)

今年で92才になります。私は江古田の本当の意味での第一回卒業生です。学徒動員でくり上げ卒業しましたから二度卒業生を出しています。90才の熱血プロガーというブログを約2年続けています。

●大塚千里(旧制21年度卒)

おかげ様で小生、元気になっております。同学の方々、いかがお過ごしでしょうかとすることがあります。

●山口正義(旧制22年度卒)

83才になりました。江古田校舎がなつかしいです。電通映画社で映画イベントプロデューサーを23年間各イベントをやりました。皆様のおかげと思います。皆様方によりしくお伝え下さい。

●酒井英二(旧制25年度卒)

八ヶ岳の自然の中に住み、満喫しているせいか、すこぶる元気です。

●大石直臣(写真33年度卒)

一般社団法人日本写真文化協会長を2007年よりつとめています。1948年に文部省から社団法人の認可を受けた協会で58年継続の全国写真展覧会の開催や協会保有の日本写真会館5階に常設ギャラリー(ポートレートギャラリー)を会場

平成24年度総会返信の近況報告を掲載いたしました。無断で掲載させて頂きましたことお詫びいたします。(順不同)()内は学科卒業年度です。

使用料無料で一般に開放しています。私は本年春の叙勲で旭日双光章を受章しました。(写真文化への貢献が受賞理由)

●商家訓(写真35年度卒)

今年の3月に岩手県、4月に宮城県、5～6月に北京・天津と旅行して来ました。あまりにも双方の景観の違いが今でも脳裏にやきついて離れません。一日も早く東北地方の復興を祈ります。

●森信正(写真41年度卒)

3月27日(協)日本写真館協会主催のプロフォトセミナー 2012が日芸キャンパスで開催され46年振りに母校をたずね、あまりの変貌ぶりにおどろきました。良い環境で良い勉強を期待しています。

●塚崎隆夫(写真42年度卒)

東京オリンピックの年に入学し、以来48年、日芸で学んだことを誇りに思い仕事に趣味に生かしてきた。「江古田を目指した志」のともし火は定年になっても心の中で、小さく燃え続けボランティアや趣味として一隅を照らし続けたい。

●阿部祐三(写真58年度卒)

拙宅のガーデニングに勤しんでおります。もちろんシャッターも押してます。食生活にも役立ってます。自作自農ですね。地産地消。

●土屋辰夫(映画31年度卒)

先日、日芸(28会)に56年ぶりに始めて出席しましたが、半世紀も立つと出席する人も少なくなり、本当に年月の過ぎるのも早いもの

だとつくづく感じた次第です。現在は会社も整理し金銭に追われないうで年金生活で一日一日を送っている今日この頃です。校友会の役員の方々も大変の事と思いますが、御身大切に今後共よろしくお願いします。

●水谷内助義(映画40年度卒)

青年座製作部、芝居の現場にまだ立っています。舞台の時間と今がいつも追いつ追われつ。果てることはありませんね。そして気がつけば71才か。

●山田文彦(映画46年度卒)

地域の芸術・文化活動を行っています。3年後の東京・金沢の新幹線開通事業(コンサートなど)の準備を始めました。母校のご発展をお祈り致します。

●武部由子(映画平成3年度卒)

2003年5月21日コロンビア大学院School of Art卒業以来NY在住して居ります。フリーで映像美術に従事しています。

●渡辺暁雄(映画平成4年度卒)

NHK大阪放送局で、ドラマの音声を担当しております。連続テレビ小説「カーネーション」の音声チーフを担当していました。ヒット作の担当ということで充実した1年でした。

●松岡義和(美術34年度卒)

74才になりましたが、まだ現役です。月木曜日は日赤北海道看護大で「芸術」と「文学」非常勤講師。火水金曜日は大空町図書館長。土日曜日は北海道のどこかで講演し

ています。校友会のますますの発展を祈ります。

●桜井孝美(美術42年度卒)

今年の正月、日本橋高島屋での個展の折(桜井孝美展)、私の画歴を御覧になり元日本大学理事、石井宏様にお声をかけていただき「日本大学人として嬉しい限りです」との言葉でした。心より感激いたしました。

●後藤欣久(美術44年度卒)

13回目の宮崎江古田会総会が開催されました。東京、福岡、熊本から来賓が来られ総勢18名となり久しく賑々しい総会懇親となり何よりでした。梅雨も間近かとなりました。お体ご自愛下さい。

●初江千昭(美術45年度卒)

現在、第2の職場ハローワークで大学生の就職支援の仕事をしています。これまで民間企業で培った知識を役立たせ、一人でも多く就職出来るようにサポートしています。山形にも日芸卒業の未就職者が時々訪れますので親身になって話しを聞く様にしています。最近の就活は気持ちだけでは通じません。就活のワザが必要です。

●五島三子男(美術46年度卒)

6月3日迄、横須賀美術館にて、三浦半島の作家の特集があり、拙作も二点展示されています。定年後オールサンデーの身、横浜のアトリエKにて個展(9月)、川越の蔵と現代美術(11月)「版17」越境する版表現(12月)これは都美館のセレクション展、気合いを入れて大作作品の予定。

●中村礼子(音楽43年度卒)

教授として勤務している国際学

院埼玉短大でご恩を返す為全力を注いで貢献しようと仕事をしています。今日、私があるのも芸術学部の特ハブの練習室で夜遅くまで励んだ学びがあるからです。恩師への感謝を忘れずに現在を生きたいと思っています。

●武藤常弘(音楽43年度卒)

35年間九州交響楽団ヴィオラ奏者として務める。退職後福岡インターナショナルスクールでバイオリン非常勤講師。2012年7月16日福岡銀行本店大ホール。サンサンス：動物の謝肉祭。ヴィオラ奏者として出演。

●安齋秀樹(音楽49年度卒)

日芸を昭和50年3月に卒業をしてすぐに故郷群馬県の教員となり、早38年目に突入し、来年3月には教職生活に終止符を打つ事になります。これも一重に母校で学んだおかげと感謝しております。日芸の発展をお祈り致します。

●染谷智子(音楽58年度卒)

昨年の芸術祭で校友会のお休み処におじゃまさせていただきました。ピカピカの現校舎の中で、古い写真の校舎を見て、自分もこの伝統ある日芸のOBであることを嬉しく思いました。次は友人もさそって行きたいと思います。おもてなしありがとうございました。

●河野美帆子(音楽平成11年度卒)

校友会報が届くことをいつも楽しみにしています。読むたびにとても懐かしい気持ちになり、あのきらきらした掛け替えのない良い友人達に恵まれた4年間を思い出します。日芸大好きです。

●林昭伸(文芸30年度卒)

80才を迎えて感無量。諸先輩からみれば、まだ鼻たれ小僧でしょう。この前、ひよんな事から音楽科中退のメゾソプラノ小川静江さん(92才)と親しく話をする機会に恵まれました。私の一回り上でエトが同じでした。

●原田嘉行(文芸40年度卒)

さいたま文学館(桶川市)の常設展示室に恩師神保光太郎先生の人と作品が紹介されており、時折観覧しては、当時の先生方より教えていただいたことや楽しかった学生時代を思い出しています。

●外崎吾郎(文芸45年度卒)

1971年4月に光文社に入社。女性自身(10)年週刊宝石(7)年コミック誌、ムック誌編集長と25年の編集者生活を経て本年2月退職。今は海と山と川をながめながら小田原の地でのんびり暮らしています。

●石川千穂子(文芸52年度卒)

東京スカイツリーの照明デザイナーとルワンダ女性の編むバスケットを輸入、販売する日本女性を取材、執筆しました。学研より『感動する仕事！泣ける仕事！』としてこの2月にアンソロジーを出版しました。

●小柳安夫(文芸56年度卒)

第6回日藝賞受賞の船越英一郎さん、おめでとうございます。船越さんのお父さんの大ファンで主に大映映画で二枚目スターとして活躍されていた姿が脳裏に焼きついています。英一郎さんも、お父さんのような存在感のある俳優として、今後ともご活躍されることを期待しています。

●吉澤保(演劇32年度卒)

今年で29年目、TBS在職中から担当している「崎陽軒」のフロートのP.Dを2012年5月4日 第60回ザよこはまパレードで大賞受賞しました。来年は80才、ぼつぼつ引退です。学部、学科の発展、校友のご健勝祈る。

●辻宏一(演劇34年度卒)

「フィールド通信」代表として小説「無名老人日記」を書いています。なお相変わらず「源氏物語」「中世史」の講義を続けています。また老人合唱団で先日バッハのコンタータ第147の終曲コラールを私のつたない日本語訳でオーケストラに合わせて歌いました。なんとも、はずかしいレベルでしたが。

●大高幸夫(演劇38年度卒)

演劇集団日本の創設メンバーでしたが「血の婚礼」公演後別れ、四場居プランナーズを創りました。1972年5月15日から一週間渋谷ジャンジャンで「アムネジマの鳩」を公演。沖縄が日本へ返還された時だったので、毎日満員でした。なつかしく思い出しています。あれから40年過ぎたのですね。

●出野徹文(演劇41年度卒)

関西テレビ社幹事、関西民放クラブ理、日本シンガポール協会参与として、皆様のお世話をする日常です。7年間事務局長を務めた「日本センチュリー交響楽団」を今もサポートしています。学友の皆さん、応援してやって下さい。橋下によって、運営資金を切られました。

●片岡一郎(演劇平成12年度卒)

活動写真弁士としての実績が

認められ9月からミシガン大学の芸術家滞在プログラムの招聘を受け、約半年間アメリカで活動する事になりました。日本の文化である活弁を世界に紹介するきっかけになればと思っています。又、来年はドイツの大学に客員研究員として呼ばれる事になりそうです。

●篠崎英雄(放送40年度卒)

芸術学部合気道部OB会長としてOB・OG総勢190名の会を運営して現役の合気道部をフォローしております。

●曾我一美(放送41年度卒)

声を出すことが好きなので、現在目の不自由な方のための音訳ボランティア(県→全国の点字図書館へ配布)をしています。個人的には常磐津にはまっています。

●藤井雅之(放送56年度卒)

全く畑違いの警察官になって30年。この春から、静岡県警本部の災害対策課長をしています。災害の発生に対して迅速な対応ができるよう努めています。

●柳田麻里(放送平成16年度卒)

出版社にて、DTP、電子書籍作成を請け負っております。まだまだ勉強不足ですが、努力あるのみです。自営業である強みを活かし、いずれ「面白い」仕事をたちあげたいと考えております。

●鈴木翔吾(放送平成21年度卒)

劇団スタジオライフに入団し役者として、舞台に立っています。

●岸口幸夫(美・デザイン33年度卒)

仕事を引退しサンデー毎日の日々を送っております。孫が今年から日大生として頑張っております。

す。

●皆川清治郎(美・デザイン40年度卒)

(株)マッキンゼーエリクソン博報堂制作局勤務中、アメリカ出張中にバードカービングと出会い現在は国際大会で多数入賞し、当時国内でのTV、ラジオに多く出演し、今年も2位、3位入賞し元気にやっています。

●興安繁夫(美・デザイン43年度卒)

NPO法人日本宝飾振興会の理事長として、特に宝石産出国の困窮する人々の支援する為の活動を始めております。是非校友の協力を！
<http://www.jaja.or.jp/advance.html>

●野内佳世子(美・デザイン58年度卒)

震災から1年以上も経ちますが、原発事故の影響で、まだまだ風評被害に悩まされて居ります(net shopなのに…)その中で校友会の皆さまの活躍は、とても励みになって居ります。

●青木純子(美・デザイン63年度卒)

いつも校友会報を楽しみにしております。ともすれば日々の業務をこなすのに精一杯となりがちですが、ふと原点に立ち返ったり、今後のことに思いを巡らせたりする機会になり、ありがたく思っております。

学部祭 11/2(金)~4(日)

校友会お休み処へ

お立ち寄りください。

写真展開催中！



西棟 3 階学芸員実習室

10:00~17:00

「第12回福岡江古田会アート展」開催

5月17日～22日

第12回福岡江古田会アート展を5月17日～22日まで、福岡アジア美術館で開催しました。

今年も、九州7県のほか東京・大阪・千葉・埼玉の校友仲間計28名から、写真・絵画・書・工芸…など、170点の作品を寄せていただきました。今回は、年齢、序列にこだわらず、アート展が一つの作品となるよう、色合いやスペースを重視し、すっきりと見せることを心掛けてディスプレイしました。

写真学科教授の原直久先生、元長崎日本大学学園校長の木下伸弘さん、九州造形短大の教授松村明さんらの作品を見ようと多数の生徒さんが来場されました。鹿児島県在住の荒木秀樹さんの作品は、400年の伝統を現代に伝える薩摩焼。昨年同じ会場で個展を行った西島義和さんは、福岡江古田会の新入会員として、

「月」をテーマにした写真を出展されました。会場の壁面を写真のコラージュで所狭しと埋め尽した横田文雄さん、今年作品は「気球」。プロの芸術的作品から、外国に住む孫の写真、書や陶芸、木彫り、パンフフラワーなど、それぞれの想いを語り合えた展示会になりました。

山梨県富士吉田市から旅行で来られた年配のご夫婦から「一つの会場で数々の充実したアートに出会えたのは初めて！ディスプレイも素晴らしい大変感動しました」とお褒めの言葉をいただきました。漢字の得意な岩永隆さんは、シンガポールから来られた五人組の学生さんと漢字をテーマに延々と30分のトークショー。感じの良い交流を繰り広げていました。埼玉から出展の古賀稔二さんは、出身地が北九州。親戚の方々が北九州からライトバンで来ら

れて、絵画の前で写真撮影し、親戚同士の絆を深められていました。

今回の展示で印象に残ったのは、写真アルバム「思い出」です。今はもうない木造の江古田校舎、映画学科の授業風景など、ページを繰るたびに日本大学芸術学部の歴史を語ってくれて、青春の良き時代を思い起こされ感動的でした。それと、阪本猪一郎さんの昭和44年度の卒業制作「与論島」。水中撮影や夜間撮影を駆使したドキュメンタリー作品で当時の学生の作品としてもかなりのハイレベルなものでした。「思い出のアルバム」で始まり「思い出の卒業制作」で終わった福岡江古田会アート展。新しい思い出作りに寄与した六日間でした。

アート展実行委員長

飛嶋慶一(写真・45年度卒)



第2回韓国江古田会総会

4月27日 於：Gallery IANG

日本大学芸術学部校友会韓国支部「韓国江古田会」の第2回総会が4月27日(金曜日) ソウル市内の Gallery IANGで開催されました。この日は日本大学芸術学部写真学科卒業者の同門写真展“eko国際写真展”のオープンも重なり、多くの関係者や卒業生が集まりました。

日本からは来賓として野田慶人学部長と原直久校友会副会長、塚崎隆夫宮城江古田会会長に来ていただきました。李相允(イ・サンユン 95院・卒)韓国江古田会支部長の挨拶、野田慶人学部長と原直久校友会副会長、塚崎隆夫宮城江古田会会長の紹介、ご挨拶に続いて議案の審議と活動報

告をしました。この日にオープンした 日本大学芸術学部写真学科卒業者の同門写真展“eko展”は2年ごとに行われていて今回が7回目になります。今年は utopiaをテーマに36人(韓国21人、日本12人、中国1人、台湾2人)の写真学科卒業生が参加し、74点の作品が出品されました。日本からも原直久教授をはじめ12人の作家の作品が展示されました。出席した参加者の中からはこのような学科と学部の結束を強めるイベントをこれからもっと活発にしていけるためにも、校友会の役割が大事だという声が多くありまし

た。席を移した二次会の席で会員たちは、久しぶりにお会いする野田学部長と原教授に近況の報告をするほか、江古田会と芸術学部の留学生の現状まで忌憚のない意見が飛び交うなど、有意義な一日を過ごしました。



第16回福岡江古田会総会

5月19日(土) 於：平和楼

福岡江古田会、平成24年度総会が5月19日(土)福岡天神の「平和楼」で開催された。昨年に引きつづき、各支部間と「交流の輪を広げよう」のテーマで始まった総会は、定刻の午後5時から式次第ののっとり美野田幹事長の開会の挨拶ではじまった。栗村会長からは出来るだけ早く九州全県に支部が創設され、より一層支部間の交流が図れるよう皆さんの協力をお願いしたいとの挨拶があり、また、明るい話題として今年3名(福岡出身)の入会者があり、内1名は福岡江古田会初の平成卒であることが報告され

た。若い人たちのこれからの活躍に期待大である。

次いで幹事長から23年度活動及び会計報告、24年度事業計画及び予算案の説明があり参加会員17名全員の拍手をもって承認された。

総会終了後に、来賓や県外校友の方々全員の写真撮影があるが何故か野田学部長の姿が見えない。綾部校友会会長がシャッターを押すまでには必ず来るからと、その言葉を信じて皆さん席に並んだその時、さっと会場の扉が開き学部長の姿が・・出席者一同胸をなで下ろしてほっと

一息、本日の参加者は総勢30名ではいい！カメラに「チーズ」。

すぐさま懇親会に入り岩永幹事の司会で進行。来賓挨拶で野田学部長から、現在所沢と江古田と分かれている教育環境を4～5年かけて江古田校舎に一体化する「通年化教育」を実現化したい、また一般教養や学科を一つにまとめた「芸術教養課程」などを考えている旨説明があった。

ついで、綾部校友会会長の乾杯で歓談に入ったが、アート展の開催中ということもあり話題はオ隣同士、芸術談義に花を咲かせて大いにお酒がすすんだようでした。

お互いの話が弾んだところで恒例の福引抽選会、各自持ち寄った景品を当選順に自己紹介、熊本江古田会の奥村会長、佐賀江古田会の正島幹事などから激励の言葉をいただいた。

また長崎からアート展出展者であ



る校友の木下さん、池田さん。大分から佐藤さんも駆けつけてくれました。

宴もたけなわ、日大県支部の徳永

支部長から江古田会の活動に賛辞がよせられ、この秋の福岡県支部総会では幹事団として県支部を引っ張ってほしいと懇願された。残り

時間も少なくなり、全員で次回総会の再会を誓い、芥川・元会長の「博多手一本」で和やかに総会を終えました。
栗村皓司(映画・36年度卒)

ふくしま江古田会総会

平成24年度総会は5月19日(土)郡山駅前「姑娘飯店」で開催されました。出席は会員19名、それに学部からデザイン学科教授木村政司先生、校友会から高松豊常任幹事、地元日大校友会支部の加藤木研幹事長、大越努副幹事長をお迎えしました。初めに大震災で亡くなった会員のご冥福を祈り、黙禱を捧げたあと議事に入りました。23年度の事業報告と会計報告を承認。次いで24年度の事業計画案として会報第4号の発行と予算案を原案どおり可決しました。

この後、記念講和として木村政司

先生から学部の現状と90周年への取り組みを拝聴しました。この中で、今春の新入生が減少したことに関連し「日大の付属高校に入れたのに日大進学が難しくなっている。美術学科を目指した娘が実技がパスしても一般教養の点数が悪かったため落とされた」と選考基準への質問がありました。

これに対して木村教授は校友会の子弟が入学を希望する場合の特例を説明、また、芸術学部は学部に適した独自の入試対策を検討していることを明らかにし、全学あげて学生確保

5月19日(土) 於：姑娘飯店

に取り組んでいると述べました。

総会の後、同会場で懇親会が開かれ親睦を深めました。

ふくしま江古田会会長島崎恒夫
(映画・31年度卒)



木村先生を囲んで

宮城江古田会総会

平成24年度芸術学部校友会宮城支部(宮城江古田会)の総会が5月25日(金)郷土料理「北の一」で開催されました。

日大校友会県支部の遠藤支部長、田邊副支部長を来賓に迎え、平成23

年度活動報告並びに会計報告、年2回会報作成等の平成24年度活動計画並びに予算案を審議、原案どおり承認されました。又、役員改正については、酒井健樹副会長(放送52)、星久美子幹事(音楽51)を新たに選任、事務局に桑島美奈(放送H22)の増員が承認されました。

懇親会では、塚崎会長から東日本大震災で被災した気仙沼・石巻・仙台の各会員の、漁船関係の仕事復活、仮設住宅で芸術活動再開、写文集発刊などその後の状況報告があり、又、今年4月に韓国で開催された韓国江

5月25日(金) 於：北の一

古田会総会に出席したときの様子なども披露されました。

来年は結成25周年を迎えるにあたり、記念行事の提案も出され、懇親会は和気あいあいの内に終了しました。

なお、野田学部長から、宮城は被災地でもあり、今回はぜひ出席したかったが監査と重なり、又、綾部校友会会長からも校友会幹事会があり、出席できず、皆さんによろしくとのメッセージをいただきました。

監事 中島斉(映画・36年度卒)



山形江古田会総会

芸術学部校友会山形県支部(山形江古田会)の平成24年度総会が、山形グランドホテルで開催されました。

来賓として、野田慶人芸術学部学部長、綾部東洋子芸術学部校友会会長、伊藤剛日本大学校友会山形県支

部支部長、近藤博七日本大学山形高等学校校長の方々をお招きしました。

6月16日(土) 於：山形グランドホテル

会員14名の参加と、今年も在学生保護者の参加があり賑やかに開会しました。来賓祝辞と紹介に続き、会計決算報告と監査報告があり承認され



佐賀江古田会総会

佐賀江古田祭りとしては11回目の佐賀江古田会総会を7月6日に佐賀市の旅館あけぼので開催しました。

今年も、激務の中を野田学部長、綾部校友会長に駆け付けていただきました。また、熊本江古田会の奥村会長、福岡江古田会の岩永さん、山田さんにもご出席いただきました。

ただし、佐賀の会員の参加者が今ひとつ。更には、予定していた会員卓和もドタキャンと云う始末。この処、次々に届く各地江古田会の会報での活動状況を知るにつけ、佐賀江古田

会の後、役員改選に入りました。支部長の横倉晋也(美術・昭和52年度卒)、幹事長の須藤一之(放送・平成2年度卒)の再任を始め、幹事、監事が原案通り承認されました。総会は、例年通り迅速に閉会しました。

引き続き、同会場で皆さんお待ちかねの懇親会が開会しました。声楽家、佐藤美喜子(音楽・昭和57年度卒)監事を中心にした日本大学校歌斉唱から始まりました。乾杯の後、会員による1分で終わらない「1分間スピー

チ」が復活しました。しかし、今年は司会の井澤聡(放送・昭和62年度卒)幹事の進行力により、ちょうど良く収まりました。平成年度卒業の会員も参加し、楽しく、明るく、元気よく、会は進行了。時間の速さを感じながら、須藤幹事長の花笠締めで中締め、閉会となり二次会へと進みました。

支部長 横倉晋也
(美術・52年度卒)

7月6日(金) 於：旅館あけぼの

の仲間は仲が良いのです。仲良きことは美しきかな。

感謝、感謝でございます！

佐賀江古田会長

音成日佐男(放送・45年度卒)



熊本江古田会・27回目の総会

7月7日(土) 於：熊本交通センターホテル

夏恒例になった熊本江古田会の24年度総会を7月7日(土)に熊本市内のホテルで開きました。今年も前日6日(金)には、佐賀江古田会の総会が開



日大校友会熊本県支部総会で講演する野田学部長

かれ、野田学部長、綾部校友会会長は翌日そのまま熊本入りという、ここ数年と同じパターンでの開催になりました。今年の総会には学部長、校友会会長をはじめ、福岡江古田会の平田副会長、佐賀江古田会の音成会長、それに日大熊本県支部長や他学部校友会の代表など10人の来賓に出席いただきました。会員の出席は14人でした。(この日は七夕のため、例年より少なかった)ただし今年は平成元年、写真学科卒業の女性が初めて参加という嬉しい事がありました。

熊本江古田会は3年後に、30周年を迎えるため、周年行事を実施することを決め、今後それに向けて、活動することにしました。

ところで8月25日(土)に開催された日大校友会熊本県支部総会に野田学部長が副総長として出席され、専門のテレビCMについて講演されました。この中で野田学部長は2011年の東日本大震災翌日の3月12日に全線開業した九州新幹線のCM(鹿児島から博多まで、開業前にCM撮影用の列車を走らせ、沿線には1万

5000人以上の人々が新幹線に向けてパフォーマンスを繰り広げる感動CM)について、震災を意識して制作されたわけではないが「がんばろう

にっぽん!」を強く意識させ、共感させるCMとなったなどと話、さらにシリーズ化された缶コーヒーや携帯電話会社のCMなど、身近なテレビCMについて、映像を使いながら

解説されました。会場を訪れた校友は、いつも何気なく見ている、テレビCMについて「新たな視点が得られた」と大好評でした。

私を含め江古田会のメンバーも学部長の授業を受けたような気がして大感激でした。

熊本江古田会 会長 奥村隆志
(写真・48年度卒)



青森江古田会総会

青森江古田会は、去る7月8日に平成24年度総会と懇親会を、青森市のホテル青森で開催しました。

ご来賓に、芸術学部より原直久学部次長と奈良豊規校友会青森県支部長をお迎えいたしました。原学部次長からは、新しい江古田校舎の現況や所沢校舎のこれからについてのお話を伺うことができました。



7月8日(日) 於：ホテル青森

総会は、平成23年度の活動経過と会計報告があった後、監査報告が行われ、全会一致で承認されました。

懇親会は、芸術学部写真学科の講師でもある和田光弘(写真S44年度卒)さんの挨拶で始まり、伊藤一郎(文芸S51年度卒)さんの朗らかな司会で、和やかに進行了しました。

「津軽地吹雪ツアー」などを主催し、今年度の『NHK東北ふるさと賞』を受賞した角田周(音楽S51年度卒)さんの、NHKニュースのDVDの上映もありました。また、写真学科の卒業生の皆さんは、恩師である原学部次長にお会いするために、声を掛け合って参加されたとのことで、再会を喜び合う姿が印象的でした。総会

初参加の会員4名の自己紹介があった後、抽選会が行われ、当選者には青森江古田会々員の関係著作物(写真集、記録映像のDVD、水彩画絵葉書など)が贈られ、大いに盛り上がりました。

二次会は地元の名店・ねぶたの国『たか久』で、青森ならではの新鮮な海の幸や郷土料理、日本酒を堪能。津軽三味線の演奏、手踊り、ねぶた囃子を体験しながら、先輩方の在学中の思い出などを伺うことが出来ました。

私自身、初参加でしたが先輩方と共に時間を過ごさせていただき、嬉しく思っております。

柴田園子(演劇・平成8年度卒)

第6回秋田江古田会総会

秋田江古田会は、7月21日(土)秋田市で平成24年度総会を開きました。

総会には、芸術学部次長の原直久



教授、校友会の綾部東洋子会長が出席、秋田江古田会の副会長浅利香津代さんが東京より馳せ参じてくれました。また、今回はS51年放送学科卒



7月21日(土) 於：イヤタカ

の永井登志樹さんが初参加しました。

田宮会長は「現役の会員は忙しくてなかなか出席していただけない。今後も参加者を増やすために総会の日時などを考慮して行きたい。また、参加しやすい事業などアイデアをご提示いただきたい」と挨拶。

原学部次長は「少子化の影響が見られるので学生の募集にも種々工夫している」など学部の現況について、また、綾部会長は、各支部江古田会の

活動状況についてお話をしました。

このあと、平成23年度の報告、24年度の活動計画と予算を承認しました。引き続いて行われた懇親会では、

今回初参加の永井さんが、浅利香津代さんの朗読台本「菅江真澄」について執筆中とのこと、秋田の会報に掲載する原稿についての提案など和やかなひとときを過ごすことができました。

した。

事務局長 仙北屋昭弘
(音楽・54年度卒)

北海道江古田会総会

7月28日(土) 於：札幌東武ホテル

平成24年度北海道江古田会総会が、平成24年7月28日午後6時半より、来賓に綾部東洋子芸術学部長・野田慶人芸術学部長をお迎えし、札幌東武ホテルで開催されました。総会では氏家副幹事長の司会により、支部長の挨拶の後、原議長のもと中山幹事長兼事務局長より23年度事業報告及び決算、24年度事業計画及び予算について説明があり、石井監査の報告も頂き全件承認されました。

本年は役員改選の年でもあり、青木副支部長(選考委員長・写真)より役員改選の原案が提示され全員の拍手により承認されました。会長は蓬田(再任・音楽)。役員の新しい顔ぶ

れは、顧問に成田武照(前相談役・写真)、相談役に荒谷恵子(前副会長・美術)、副会長に牧 泰昌(前副幹事長・文芸)・岩佐寿美代(前幹事・放送)が決まりました。また重要な幹事長には中山芳夫(再任・音楽)、副幹事長に鈴木由美(前幹事・音楽)、新事務局長に氏家曹一(前副幹事長・放送)、事務局次長に戸澤由香子(前幹事・放送)

また会計監査に中村美智夫(前幹事・映画)、幹事に内村俊介(映画)、谷口由美(放送)が決まり、新オブザーバーには久保俊哉(放送)・高橋徹(写真)・松岡雪華(演劇)の三人が加わり役員45名の新体制となりました。

懇親会は成田フォトサービスの写真撮影の後、戸澤由香子(放送)の司会により日大校友会札幌支部長の是安正之様の乾杯でスタート、来賓挨拶では、綾部会長から全国の江古田会の状況、野田芸術学部長からは芸術学部の現状とこれからについてお話を頂きました。

今回の懇親会特別企画は札幌国際短編映画祭の企画・運営で活躍されている、久保俊哉(放送)を招き、優秀な作品を視聴しながら、説明をいただきました。

大当たりが出そうだったスクラッチでしたが、残念！それでもいくつかの寄付をいただきました。ありがとうございます。来年はなにやら予感が！

お忙しい中駆け付けて頂いた札幌日本大学高校の浅利剛之校長、札幌日大高校の更なる活躍が楽しみです。桜法会八十島会長、角笛会中澤幹事長。ありがとうございます。楽しい時間は瞬間に過ぎ、北海道桜師会の伊藤茂樹会長の締めによりお開きとなりました。またの再会を期して!!

ところで平成20年音楽入学の鯉淵駿君を中心に歌った校歌、綾部会長にしてこんな校歌を聞いたのは初めて、さすが北海道江古田会!!!

会長 蓬田秀泰
(音楽・42年度卒)

新潟江古田会総会

8月4日(土) 於：ホテル新潟

去る8月4日、新潟江古田会総会が野田学部長、綾部校友会会長をお招きして新潟市のホテル新潟で開催されました。

新潟県内各地の夏まつりと時期が重なったせいか、出席者が少なかったのですが、和気あいあいのうちに終了しました。

今年から支部長が、昭和48年度写真学科卒の増井伸一に幹事も昭和48年度放送学科卒の片桐孝になりました。

よろしくをお願いします。

会長 増井伸一
(写真・48年度卒)



学科ニュース

写真ブロック



●今年度、アマナグループのフォトグラファー、CGクリエイター、プロデューサーの各講師による「写真特別講座Ⅶ」アマナプロフェッショナル講

座を開講。

●6月8日に客員教授大石芳野氏の特別講座「チェルノブイリと福島」が所沢校舎で行われた。続いて6月29日には江古田校舎で高橋宗正氏により「写真集『スカイフィッシュ』と宮城県山元町での写真洗浄プロジェクトについて」の特別講座が行われた。

●「出て来い新人—日本大学芸術学部写真学科 気鋭学生写真展」をニコ

サロンbis新宿で6月26日から7月2日に開催。出品者は4年次生の姥貴章、加藤雄也、桑田恵里、小暮和音、清水真那美、趙スラ、中村高樹、野村和宏、松田裕介、米川貴啓。

●高校生のためのワークショップ開催 7月21・22日。

●写真甲子園2012・東川フォトフェスタバックアップ 7月23日から29日。

●読売写真教室開催 8月26日。

映画ブロック



●「フォーカスイン'2012」

平成23年度卒業制作、映画演出Ⅲ／

映画技術Ⅲによる作品上映会「フォーカスイン'2012」が、平成24年6月24日～7月1日までの7日間、江古田校舎東棟EB-2教室で行なわれました。68作品が上映され、のべ600名余りが来場し盛況のうちに幕を閉じました。

●平成24年度オープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスは平成

24年7月16日の海の日には江古田校舎で行なわれました。映画学科では、PRビデオの上映、映画学科施設見学ツアー、映像表現・理論コースの説明会、卒業制作や映画演出Ⅲ／技術Ⅲの実習作品上映会、進学相談が行われ、多くの受験生が来場しました。

美術ブロック



○設楽俊展

会期：2012年9月10日(月)～15日(土)
11:00～19:00※最終日17:30まで

会場：みゆき画廊 東京都銀座6-4-4銀座第二東芝ビル2F TEL03-3571-1771

○第5回柳瀬荘アート教育プロジェクト「アートと対話」

会場：所沢市「柳瀬荘」埼玉県所沢市大字坂の下437

出品作家：日本大学芸術学部美術学科教職員と外部招聘者(卒業生)

大槻孝之、笹井祐子、富井大裕、鷹尾俊一、松本隆、櫻井孝美、田中康二郎、横尾

哲生、古谷博子、濱田富貴、長谷川佐知子、内山翔二郎、宮澤真徳、正親優哉、梅津秀行、弓良麻由子、網谷幸太
会期：2012年10月18日(木)～11月11日(日) ※木～日曜日のみ開場10:00～16:30

【ワークショップ】

・10月21日(日) 10:00～16:00

「竹でおもちゃを作ろう」講師：桑原淳司(デザイン学科教授)

対象：小学生から一般まで(小学3年生以下は保護者同伴のこと)

定員：20名

・10月28日(日) 13:00～14:30

「重要文化財 柳瀬荘『黄林閣』をひも解く」講師：深谷光美(デザイン学科講師・建築家)

対象：中学生以上

定員：40名

・11月10日(土) 14:00～16:00 アーティストトーク

※ワークショップ、講演は事前申込制です。

「講座名、住所、氏名、学年(年齢)、電話番号、必要に応じて保護者名」を記入してファックスでお申し込みください。
FAX04-2993-2210「日本大学芸術学部所沢校舎庶務課・柳瀬荘アート・プロジェクト」宛

※アーティストトークは参加自由です。

お問い合わせ：TEL04-2993-2203(所沢校舎美術学科事務室)

○東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画・版画×日本大学芸術学部美術学科彫刻・大学院造形芸術専攻彫刻「ジェロニモ」

出展作家：内山翔二郎、宇都宮恵、OJUN、鞍掛純一、菊池絵子、倉岡良太、寺田藍、富井大裕、豊島鉄也、鳴海暢平、船橋みふゆ、山口真和、山脇紘資、渡辺万

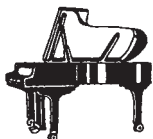
莉葉

会期：2012年10月12日(金)～10月30日(火) 11:00～19:00※日曜休廊
レセプションパーティー：10月13日(土) 18:00～20:00

会場：TURNER GALLERY(ターナー
ギャラリー)東京都豊島区南長崎6-1-3
ターナー色彩株式会社東京支店ター
ナーギャラリー 1・3・4F
TEL03-3953-5155 FAX03-3953-5153

<http://www.turner.co.jp/gallery/>
本展へのお問い合わせ：東京藝術大
学油画教員室(担当：菊池) TEL050-
5525-2144

音楽ブロック



平成24年度 音楽学科主催演奏会は次の通りです。いずれも入場無料ですの
で、お気軽にご来場ください。

●第107回定期演奏会

10月12日(金) 練馬文化センター・小
ホール 17時30分開場／18時開演
ピアノ 平田亜樹、石井 緑、岡田治樹
メゾソプラノ 小林史佳、小林麻利
子 ソプラノ 増田未玲 バストロン
ボーン 室井笑利奈 トランペット
池ノ谷大志 サクソフォーン 渡辺定
路 オーボエ 鹿又寒太郎 作品発表
根本修幣 ソプラノ 高橋薫、小山
百合恵 ピアノ 日高麻子、谷 亜矢子

●第43回オペラ公演

10月17日(水) 練馬文化センター・小
ホール 18時開場／18時30分開演(予
定)
モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」
(ハイライト)日本語上演

●第108回定期演奏会

10月22日(月) 練馬文化センター・大
ホール 17時30分開場／18時開演
ラヴェル：ピアノ協奏曲ト長調(ピア
ノ独奏 渋谷ひかり)
コープランド：クラリネット協奏曲(ク
ラリネット独奏 明妻若奈)
J. ハイドン：オラトリオ「天地創造」よ

り「今、天は光に溢れて輝き」(バリトン
独唱 大津康平)

リスト：ピアノ協奏曲第1番(ピアノ独
奏 純田未樹)

フンメル：トランペット協奏曲(トラ
ンペット独奏 石井恵美)

ジョリヴェ：打楽器協奏曲(打楽器独
奏 中島若菜)

○指揮 今泉 久・右近大次郎

○管弦楽 日本大学芸術学部管弦楽団

●第48回室内楽の夕べ

11月7日(水) 練馬文化センター・小
ホール 17時30分開場／18時開演
9月末に行われる室内楽学内演奏会に
おいて、優秀であった団体による演奏
会です。

●第40回ファカルティコンサート

11月10日(土) 芸術学部江古田校舎・
音楽小ホール 18時開場／18時30分
開演
本学教員による演奏会です。

●第24回ウインドオーケストラ定期演 奏会

11月20日(火) 練馬文化センター・大
ホール 18時開場／18時30分開演
P.R.M.フォーシェ：吹奏楽のための交
響曲

D. ミヨー：フランス組曲

S. メリロ：ストームワークス

A. リード：ロシアのクリスマス音楽 他

○指揮 大木孝雄

○演奏 日本大学芸術学部ウインド
オーケストラ

●第41回ピアノコンサート

11月26日(月) 練馬文化センター・小
ホール 15時開場／15時30分開演
本学ピアノコースの学生による演奏会
です。

●第109回定期演奏会

12月5日(水) 練馬文化センター・大
ホール 17時30分開場／18時開演
R. シュトラウス：交響詩「ティル・オ
イレンシュピーゲルの愉快な悪戯」
A. ヒナステラ：ハーブ協奏曲(ハーブ
独奏 篠崎史子)

G. フォーレ：レクイエム(ソプラノ
齊田正子、バリトン 池田直樹)

○指揮 矢崎彦太郎

○管弦楽 日本大学芸術学部管弦楽団

○合唱 日本大学芸術学部合唱団

●大学院 修了演奏審査会[ピアノ]

12月15日(土) 芸術学部江古田校舎・
音楽小ホール 開場／開演(時刻未定)

●大学院修了演奏審査会[声楽・管楽]

12月18日(火) 芸術学部江古田校舎・
音楽小ホール 開場／開演(時刻未定)

●第33回新作室内楽の会

12月21日(金) 芸術学部江古田校舎・
音楽小ホール 開場／開演(時刻未定)

●平成24年度 大学院修了演奏会

3月14日(木)練馬文化センター・小ホ
ール 開場／開演(時刻未定)

●平成24年度 卒業演奏会

3月21日(木) 練馬文化センター・小
ホール 開場／開演(時刻未定)

文芸ブロック



■第23回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞で多数入賞！

173万7618句の応募があり、その中から下記の学生の作品が選ばれました。また、日本大学芸術学部が「優秀学校賞」を受賞しました。

◎都道府県賞

輪切りして等高線のキャベツかな
二川智南美(文芸3年)

◎佳作特別賞

ピーマンはついに苦手なまま二十歳
小沼理(文芸3年)
寒椿私にも火を分けてくれ

笠原早有美(文芸4年)
落丁の明らかとなる雪催い
北野太一(文芸4年)
手土産の雑多な蜜柑ふたつ食ふ
池田真那美(文芸卒)

◎佳作

踏みしめて落葉の鳴く音ドラムの音
宮崎綾(文芸3年)
春めきて眼鏡は要らぬ並木道
川本桃子(文芸3年)
春暁の夜汽車の頁にときめいて
加藤滯(文芸3年)

悴んだ手で空っぽの籠手落とす

飯島哲也(文芸卒)

■第28回日大文芸賞を文芸学科生が受賞

文芸賞受賞は、2012年7月20日発行の「日本大学新聞」に掲載されています。

◎文芸賞「穴」 杉山知紗(文芸3年)

◎優秀賞「ワンモアプレイ」

儀保佑輔(文芸学部前期課程2年)

◎佳作「ランドスケープ」

額賀滯(文芸4年)

「クレーヴの花」 沢田石円(文芸3年)

「怒れる夏」 関野圭吾(文芸2年)

演劇ブロック



◇日藝NAPに日舞・洋舞コース有志が参加、創作舞踊作品を上演。

美術学科、鞍掛純一教授と同学科彫刻コース有志作品「やまのうえした」が新潟県十日町市周辺で開催された「大地の芸術祭、越後妻有アートトリエンナーレ2012」に参加出品され、同作品の日藝NAP参加企画(監修：沼田憲平・原一平)というかたちで、演劇学科日舞コース及び洋舞コースの学生有志38名が、8月13日から16日にかけて、新潟県の松代、星峠集落にある鞍掛教授+彫刻コース有志作品「脱皮する家」及び「コロッケハウス」で創作舞踊作品を上演しました。日舞コース有志4年生は、創作舞踊詩『Omoide-時の記憶』(作：小林直弥、演出：高橋小百合)を作品「脱皮する家」内にて一日展示形式で上演。映画学科奥野邦利教授らの影絵映像と

のコラボレーションによる新しい試みがなされ、作品「コロッケハウス」横の鉄製舞台周辺では、日舞コース有志3、2、1年生らが創作舞踊詩『Kukai-清康の華』(作：小林直弥、演出：中島瑞紀)を上演(舞踊監修：花柳昌太郎講師)。洋舞コース学生有志は、卒業生で舞踊家の村松真衣さんの作品『大地を踊る』(企画：笹山志帆)を上演し、日舞、洋舞コース共に美術学科、映画学科、放送学科、写真学科をはじめ、芸術学部のアートが里山に集結した日藝NAP企画で、舞踊創作の可能性を広げる三つの作品を上演しました。

◇第39回演劇資料展『京劇舞台の表と裏』展を開催！

9月25日から10月19日にかけて、第39回演劇資料展『京劇舞台の表と裏 時代に翻弄された国劇の軌跡』(企画：范旅教授)が開催されました。日本大学芸術学部芸術資料館には、恐らく日本の大学資料館では唯一中国の伝統劇である京劇の衣裳、小道具等を収蔵しており、それらは全て実際に舞台上で使用できるものが保存されています。今回はその

内262点にも及ぶ京劇に関する貴重な資料が展示されました。メイン会場となった芸術資料館展示室をはじめ、江古田校舎西門前のアートギャラリーには、中国の伝統芸術である京劇の貴重な衣裳や小道具、また資料等が多数展示され、大盛況かつ意義の深い展示会となりました。

◇後期実習発表スケジュール

平成24年度後期も所沢校舎・江古田校舎におきまして、さまざまな実習発表を実施いたします。校友の皆様方のご来場をお待ちしております。尚、各発表に関しましては、インターネットからの事前予約が必要です。詳しい予約スケジュール及び予約方法に関しましては、

演劇学科ホームページ

<http://theatre.art.nihon-u.ac.jp/>

でご確認ください。

※タイトル及び開演時間等、詳しい内容は、演劇学科ホームページでご確認ください。

※○＝江古田校舎 ●＝所沢校舎

○舞台総合実習ⅣA(演劇)

『ACTガリシア＝マルケス 予告された殺人の記憶』(学生共同台本)

- ・演出：加藤直
- ・10月12日(金) 18：30
13日(土) 13：00/17：00
14日(日) 14：00
- ・江古田校舎 中ホール

○舞台総合実習ⅤA(演劇)

『結果論』(学生共同台本、学生演出)

- ・演出指導：田中麻衣子
- ・10月26日(金) 18：00
27日(土) 13:00/18:00
28日(日) 13：00
- ・江古田校舎 小ホール

●舞台総合実習ⅡD(洋舞)

『Modern Dance Performance』

- ・創舞指導：加藤みや子、松永雅彦
- ・10月26日(金) Aプロ16：00
Bプロ18：00
27日(土) Bプロ13：00
Aプロ15：00
- ・所沢校舎 アートセンター・ブ

ラックボックス

○舞台総合実習ⅣD(洋舞)

『Modern Dance Performance』

- ・創舞指導：松永雅彦
- ・11月16日(金) 18：00
17日(土) 13：00/17：00
- ・江古田校舎 中ホール

●舞台総合実習ⅡC(日舞／創作)

佐野洋子作「100万回生きたねこ」より 創作舞踊作品上演(学生合同創作)

- ・創舞指導：藤間恵都子
- ・12月1日(土) 13：00/16：00
- ・所沢校舎 アートセンター・ブ
ラックボックス

○卒業制作公演(演劇)

宮本研作『ブルーストッキングな女たち』

- ・12月7日(金) 18:00
8日(土) 13:00/18:00
9日(日) 13：00
- ・江古田校舎 中ホール

●舞台総合実習ⅡA(演劇)

「作品タイトル等未定」

- ・演出：西沢栄治
- ・12月13日(木)～15日(土)
- ・開演時間等未定
- ・所沢校舎 アートセンター・ブ
ラックボックス

○卒業制作公演(洋舞)

『Modern Dance Performance』

- ・12月14日(金) 14：00/18：00
15日(土) 13：00/17：00
- ・江古田校舎 中ホール

○卒業制作公演(日舞／創作)

『Contrast』

- ・12月21日(金) 18：00
22日(土) 14：00
- ・江古田校舎 中ホール

放送ブロック



■シンポジウム「地域発ドラマの現在」 のご報告

4月21日、江古田校舎にて日本マス・コミュニケーション学会主催によるシンポジウム「地域発ドラマの現在」が開催されました。

中町綾子教授が司会進行を務め、関西テレビから重松圭一氏、NHK大阪放送局から河合理香氏をお迎えし、地域での制作環境の実際と今後の課題、ドラマと地域の関わりなどお話しして

いただきました。

シンポジウムには、学生の他にマスコミ放送関係者の参加もあり、地域発ドラマへの取り組みについて様々な意見交換がなされました。

■「ラジアンリミテッドF」公開収録の ご報告

TOKYO FMで毎週金曜日の深夜1時から全国38局ネットで放送されている『やまだひさしのラジアンリミテッドF(フライデー)』の公開収録が、江古田校舎の録音スタジオAで行われました。

番組内のコーナー「Pocky presents 放課後のMUSIC ROOM」でその模様が取り上げられ、6月15日に放送されました。

番組パーソナリティのやまだひさしとゲストのキマグレンとの交流企画やスタジオライブに、参加した学生たちはおおいに盛り上がりました。

■講演会「テレビメディアについて考 える」のご報告

練馬区教育委員会主催、放送学科共催による講演会「テレビメディアについて考える～番組制作をとおして学ぶこと～」が、8月3日に江古田校舎のEB1教室にて行われました。

練馬区教育委員会の情報教育推進事業として開催されたこの講演会は、6月23日から7月31日にわたって練馬区の中学生を対象に行われた「中学生のための情報番組制作ワークショップ」と連動しており、このワークショッ

ブで中学生たちは、練馬区を題材とした30分のテレビ番組「People change people's mind」を制作しました。

講演会では完成した番組の上映とあわせて、番組制作の指導を担当した鈴木康弘教授が「テレビメディアについて考える」と題した講演を行い、番組をとおして社会に目を向けること、また、情報リテラシーを身につけることの大切さをお話されました。

当日はワークショップに参加した中学生とその関係者他、一般の方々にも参加していただきました。

■上滝徹也先生が定年退職を迎えられました。

放送学科の専任教員として永年ご活躍された上滝徹也先生が定年退職を迎えられました。

テレビ文化史を専門にされ、「放送概論」、「放送文化論」、「マスコミ」など多くの講座をご担当され、学生の教育、研究活動の指導にあたっていただきました。

また、学部次長、学科主任、ワンダーフォーゲル部相談役など学科、学部の運営から学生生活に至るまで、様々な立場で大学のためにご尽力いただきました。ありがとうございました。

これからも放送学科のことをどうぞ

よろしくお願いします。

■難波照夫さんが定年退職を迎えられました。

永年に亘り放送学科の技術員としてご尽力いただいた難波照夫さんが今年度の9月で定年退職を迎えられました。

テレビ制作、映像技術など映像関連の実習を中心に、たくさんの学生を指導していただきました。

分からないことを丁寧に教えてくれ、一緒に親身になって考えてくれる。そんな温厚な人柄に多くの学生が慕い、お世話になりました。

難波さん、本当にお疲れ様でした。これからもお元気でいらしてください。

デザインブロック



■深谷基弘教授が専任教員を退職

長年デザイン学科で教鞭を取り続け、現在の建築デザインコースの礎を築いた深谷基弘教授が定年を迎え、専任教員を退職することになりました。これを記念して、7月28日に江古田校舎において「棟梁に学ぶ家—四十年の軌跡……そしてこれから」と題し、深谷先生の退職記念講演会が開催されました。ライフワークとして取り組んできた日本の伝統工法による家づくりへの

こだわり、40年におよぶ師の研究活動を振り返るとともに、優れた日本の木造建築の伝統技術を未来に向けて継承し発展させることの大切さを説きつつ、これからの建築やものづくりの考え方を示唆する講演でした。この深谷先生の「最終講義」には約160名のOB・OGと関係者が出席し、会場は満席となりました。また、講演会終了後には約120名が出席して謝恩会が催され、恩師を囲み教え子らが世代を超えて親交を深めました。

また、深谷先生の業績の集大成として、9月24日から10月6日まで、江古田校舎ギャラリー棟にて師の退職記念展が開催されました。ありがとうございました。

■「第8回公共広告CM学生賞」でデザイン学科生ほかが最優秀アイデア賞と優秀賞を受賞

公益社団法人ACジャパン主催の標記コンクールにおいて、応募総数154作品の中から、デザイン学科生が他学科生と共同制作した作品が最優秀アイデア賞を、デザイン学科生が共同制

作した2作品が優秀賞を受賞しました。作品タイトルと受賞者は次のとおりです(敬称略)。

○最優秀アイデア賞

『マナー専用車両』／増田貴明、大平奈央(以上デザイン)、石田智美(文芸)、牛山直美(演劇)、太田絢子、安本 侖(以上写真)、小形 翔、高山由菜(以上放送)、清水朗樹(映画)

○優秀賞

『ヤバイ語』／島崎みのり、増田貴明、外山里香、長井 創、大平奈央、菊田みなみ、益子恵里
『忘れ物』／石井美佳、一條薫子、今なつき、佐藤廣樹、塩野芽衣、田谷滯子、比田井彩歌、柳沼香陽子、輪島大也

■「STEAMCREAM5周年デザインコンペ」でデザイン学科生が最優秀賞を受賞

SC.Cosmetics株式会社が募集した自社商品のパッケージデザインのコンペにおいて、藤平奈央子さん(3年)が最優秀賞を受賞しました。課題テーマの「5」と水引を上手に組み合わせ、シンプルながらSTEAMCREAMの5周年記念

として最もふさわしいということで最高賞の受賞となりました。最優秀作品は5周年記念缶として商品化され、4月からSTEAMCREAMのオンラインショップで販売されています。

■「第4回JPCAデザインアワード」でデザイン学科生が準グランプリと優秀賞を受賞

社団法人日本電子回路工業会が主催する展示会のポスターコンペにおいて、伊藤安奈さん(3年)が準グランプリ、藤

平奈央子さん(3年)と輪島大也さん、山本佑美さん(ともに4年)が優秀賞を受賞し、全体で6名の受賞者のうち4名が本学デザイン学科生という快挙を成し遂げました。

■「デザイン学科海外客員教授特別講演会」を開催

本学と親交が深い台湾の華梵大学の徐裕健教授と蕭百興准教授を招き、6月8日に所沢校舎で、9日に江古田校舎で特別講演会が開催されました。経

済発展が著しい台湾にあって、文化や伝統と歴史を大切にし、その新たな継承方法の研究や魅力ある都市づくり、地域活性化に取り組んできた両氏の活動成果の一端が紹介されました。また講演に続き、デザイン学科の教授陣も加わり、両氏を囲んでトークセッションも行われ、多くの学生が熱心に聴講しました。



芸術祭のご案内

(株)スタジオ・マイ▶1973年設立。
ビジュアルから立体に至る、デザイン全般を受け持つ。10月に39年(サンキューイヤー)を迎える。

(株)スピーチ・バルーン▶1985年発足。絵本、コミック、アニメ他、企画本の制作、出版プロデュースを主とし、グループ4社の進行管理を担う。また、各種イベントの企画・構成・プロデュースなども行っている。

(株)スタジオ・マイ ☎03-5999-8611

(株)スピーチ・バルーン ☎03-5999-6911

design: スタジオ・マイ

編

集

後

記

東日本大震災から1年、911同時多発テロから11年たった今年ですが、繰り返しテレビやネットに現れる「記録」が、薄れかける記憶を呼び覚ましてくれます。江古田も新しいキャンパスになり、かつての姿は一掃されていますが、きっと皆様のお手元にある写真などが、あの頃の記憶を今も鮮やかに更新し続けているのではないかと思います。(青木)

8つのアート1つのハート



日本大学芸術学部校友会報 第89号

2012年秋号 ●平成24年10月発行●

- 編集人 会報編集委員会
- 発行人 綾部東洋子
- 広報担当 鈴木孝史 今泉久 青木敬士
小林直弥 金龍郎 木村政司

- 発行所 日本大学芸術学部校友会
東京都練馬区旭丘2-42-1
日本大学芸術学部内
電話 (03) 3554-5363
事務担当 北嶋 留美子

- 印刷所 江戸クリエート株式会社
東京都文京区本郷3-40-10
三翔ビル本郷
電話 03-3814-1225

非売品

不許可転載

- 表紙
美術学科
越後妻有アートトリエンナーレ2012
日芸アートプロジェクト

2013年度一般入学試験〈第1期〉・〈第2期〉日程

I 一般入学試験諸日程〈第1期〉(募集人員376名)

学科及び募集人員	出願受付締切期日		試験期日	試験場	合格発表日時	入学手続締切期日
	郵送(必着)	窓口受付				
写真美術音楽放送デザイン(43)(30)(45)(54)(40)	1月29日(火)	1月29日・30日(火・水)のみ窓口受付	2月5・6日(火・水)	芸術学部江古田校舎	2月14日(木) 13:00	2月28日(木)
			2月5・6日(火・水)		2月14日(木) 13:00	
			2月5・6・7日(火・水・木)		2月14日(木) 13:00	
			一次 2月5日(火) 二次 2月8日(金)		一次 2月7日(木) 14:00 二次 2月14日(木) 13:00	
映画文芸演劇(64)(60)(40)	2月5日(火)	2月5・6日(火・水)のみ窓口受付	2月12・13日(火・水)		2月21日(木) 13:00	3月7日(木)
			2月12日(火)		2月21日(木) 13:00	
			2月12・13日(火・水)		2月21日(木) 13:00	

- ※ 一般入学試験に関する〈第1期〉各期日はすべて2013年のものとします。
- ※ 出願受付開始期日は2013年1月8日(火)、一般入学試験〈第1期〉の入学手続きは二段階手続方式が可能。二段階方式の最終入学手続期限は2013年3月25日(月)とします。
- ※ 放送学科以外の各学科は一次・二次の区分なく全受験生に対して行います。放送学科の二次試験は一次試験合格者のみ行います。
- ※ 1月28・29日、2月4・5日(いずれも月・火)のみ、日本大学入試センターの窓口にて出願受付を行います。(受付時間=10:00~16:00)
- ※ 1月29・30日、2月5・6日(いずれも火・水)のみ、日本大学芸術学部江古田校舎にて出願受付を行います。(受付時間=10:00~16:00)

II 一般入学試験諸日程〈第2期〉(募集人員58名)

学科及び募集人員	出願受付締切期日		試験期日	試験場	合格発表日時	入学手続締切期日
	郵送(必着)	窓口受付				
写真映画美術音楽文芸演劇放送デザイン(5)(10)(5)(6)(10)(7)(12)(3)	全学科 2月26日(火)	2月26・27日(火・水)のみ窓口受付	3月5日(火)	芸術学部江古田校舎	3月14日(木) 13:00	3月25日(月)
			3月5・6日(火・水)		3月14日(木) 13:00	
			3月5・6日(火・水)		3月14日(木) 13:00	
			3月5・6日(火・水)		3月14日(木) 13:00	
			3月5日(火)		3月14日(木) 13:00	
			3月5・6日(火・水)		3月14日(木) 13:00	
			一次 3月5日(火) 二次 3月8日(金)		一次 3月7日(木) 14:00 二次 3月14日(木) 13:00	
			3月5日(火)		3月14日(木) 13:00	

- ※ 一般入学試験に関する〈第2期〉各期日はすべて2013年のものとします。
- ※ 出願受付開始期日は2013年1月8日(火)、入学手続期限は2013年3月25日(月)とします。一般入学試験〈第2期〉に関しては一括での手続きとします。
- ※ 放送学科以外の各学科は一次・二次の区分なく全受験生に対して行います。放送学科の二次試験は一次試験合格者のみ行います。
- ※ 2月25・26日(月・火)のみ、日本大学入試センターの窓口にて出願受付を行います。(受付時間=10:00~16:00)
- ※ 2月26・27日(火・水)のみ、日本大学芸術学部江古田校舎にて出願受付を行います。(受付時間=10:00~16:00)